

第14回【合格体験記】

公立大学・首都大学東京にゼミナール入試で合格!

今回インタビューするのは、第4回でも登場していただいた、N君。あれから1年弱で、遂に志望していた大学へ「ゼミナール入試」で合格を果たしたとのこと。合格までの軌跡と、塾で行った対策について話を伺った。

■ゼミナール入試とは？

学部を行うゼミナール（高校等の生徒を対象に実施する講義、演習等）を用いたAO入試。従来のペーパーテストによる入試とは異なり、大学で行うゼミナールに参加し、その修了者を対象として入学者を選抜する入試方法。非常に狭き門で、受験者数約60人に対し、最終合格者は14名のみ。

Q 今回合格した大学を受験すると決めた時期はいつ頃でしたか？

A 今年の1月9日です。大学説明会に参加した日なので、よく覚えていません。その日に首都大学東京の教授とお話をさせていただき、「この大学に入りたい！」と強く思うようになりました。

Q 合格までにどのようなことに取り組みましたか？

A 生物や化学の勉強はもちろんのこと、大学で発表するための課題研究が主です。試験が近付いてからは、面接

の練習も行ないました。また、AO入試で不合格だった時のことも考え、一般受験に必要な科目の勉強も進めました。

Q 塾側はどのようなフォローをしてくれましたか？

A 苦手な数学は、I・A・II・B・III全範囲でわからない部分を詳細に教えてもらい、一連の復習を行なううえでどのような順序で取り組んでいけば効率が良いのかも教えてくれました。センター試験でも必要な国語の対策や、今後特に必要になる現代文のフォローもしてくれました。また、入試前の面接対策も大変有効でした。

Q 一番感謝を伝えたい先生は誰ですか？

A 森山先生です。以前もお話しましたが、数学はわからないところをすべてわかるまで教えてもらえます。面接練習についても森山先生が行なってくれて、様々なパターンの質問をしてくれました。

Q では、印象に残っている出来事はなんでしょうか？

A 高校1年生の時に、塾を辞めたこと

です(笑) 中学3年生の時に言われた、「塾を辞める」という話が現実になりました。この時期まで、やはり周囲の人間に対して反抗という名の牙を剥いていましたが、ここで塾を辞めて自分を見つめなおす機会があったことから、勉強やそれ以外のことにしても考え方が少しずつ変わり、将来についても考えるようになりました。半年経たずに、自分の数学の状況が悪くなっていることに焦りを感じ、また塾に復帰しました。自分でもこの時期から考えると、今は落ち着いてきたかな、と感じています(笑)

最後に、「僕はI・T・T・Oに通って、自分の進みたい『生物学者への道』への門を開くことができました。特に森山先生には勉強以外の面に関してもお世話になり、受験のことや大学のことなど、アドバイスをもらえました。勉強以外にもいろいろな話ができ、常識やゲーム、日々のことなども相談できるので、とても居心地のいい場所です。自分の伸ばし方を教えてくれる塾だと思っています。皆さんもぜひ、自分の伸ばし方を知りたい。一度来てみてください。」と話してくれたN君。夢へ向かって、全力で走り続けてもらいたい。